

## さわやか通信



## 外来診療部会議

**外来診療部会議**は、未だ発足して2年半に満たない部会議で、皆様にあまり認知されていないかもしれません。以前は外来診療で生ずる諸問題に対して意見を交わす場がなかったわけですが、本会議発足後は各科横断的に討議し、少しずつながらも改良を加えてまいりました。

これまで本会議で検討した主な課題は、「**セカンドオピニオン外来**」「**外来ブースの効率的活用**」「**電算システム変更**」「**後発医薬品への対応**」「**内視鏡・RI・造影検査に伴う薬剤の取扱い**」等です。これらの諸問題に対し、いくら外来医長が集まっているとはいえ、いったん各科へ持ち帰り、次回(月1回開催)に意見をまとめて決定の予定ですが、想定外の意見も飛び出し、再度持ち帰り、最終決定までに数カ月を要することもあり、まるで何回も失敗してようやく完成したドミノ倒しみたいなものかも知れません。

現在は「**外来注射オーダー**」の検討中で、外来化療セ



ンターから始めることになりましたが、実施入力はいつどこで誰がするか、指示書はどうするか、予定日以外の実施はどうするか等、まだまだ長い道のりです。

今後は、病院再整備に向けた外来部門の検討予定ですが、現状では**各科のブースが不足**しているという声が多く、また**集団指導室や相談室、職員休憩室**だってほしい等、皆様の満足のいく外来再整備ができるよう準備を進めたいものです。

以上、外来診療部会を少しはご理解いただけたかと思いますが、外来は患者さんが病院に来られる最初の接点であり、今後も患者サービスに向けた諸問題を解決して行きたいと考えております。

皆様のご理解とご協力、よろしくお願いいたします。  
(外来診療部長 大園誠一郎 外来看護師長 山田まち子)

## ～認知症の予防薬～

中国古来の医学書「黄帝内経」の中にはすでに「**未病を治す**」という考え方があります。たとえ危険因子を抱えていても、養生することによって発症を防ぐことができるというもので、その目的で処方される漢方薬が「**上品(じょうほん)**」と見なされています。**最近**は特に、**認知症の予防薬についての質問が外来でもメールでの問い合わせでも昨年に比べて3倍に増えました。**

漢方薬では、老化をベースにした様々な病態に用いられる**八味地黄丸が認知機能の改善に有効**だという報告があります。また、**脳梗塞や脳出血後の認知症には釣藤散が有効**だという報告もあります。更には、臨床的に認知症を発症することなく天寿を全うするための予防薬が近々、漢方薬のなかから誕生するという論文まで出ました。しかし今のところ、テレビや新聞・雑誌でいわれる程の効果を出すくすりにはネズミにとっては有効でも、人では未知数です。

それでも生薬の中に人にも効きそうなものはあります。血管の拡張作用や加齢による空間認知機能障害を改善する**イチョウ葉エキス**がそのひとつです。既にドイツなどヨーロッパ圏では薬剤として使用されています。また、インドでは米国に比べてアルツハイマー病の発症率が低いという観察から、カレーのスパイスに含まれるウコンの成分の**郁金(クルクミン)**が注目されています。実際に**アルツハイマー病で認められるβタンパクの神経毒性を予防する効果が報告され、赤ワインのポリフェノール**とともに**臨床に應用され始めました。**そういえば、宴会の席では赤ワインを飲む人が圧倒的に増え、カレー料理から無くなっていくとあるホテルマンからお聞きしました。

**予防がそう簡単に行くはずがないと、ことある毎に他人には説明しています。でも10年前からウコンエキス30mgと赤ワインをグラス2杯、毎日欠かさず自分でもあります。**(第一内科、宮嶋裕明)



## 『歯科口腔外科です！』

今回は、私ども、《歯科口腔外科》の紹介をさせていただきます。口腔外科の病棟は、西6階、外来は1階にあります。当科の診療内容ですが、原則として、一般の歯科医院で行われている「齲蝕（むしば）」や「歯周病（歯槽膿漏）」の治療は行っていません。但し、**全身的な病気がある人や、麻酔薬アレルギーを持つ人など、開業歯科医で治療が困難な場合は受け付けています。**したがって、当科で取り扱っている領域は、特殊歯科といわれる「**有病者歯科・障害者歯科、救急歯科（災害時歯科）**」と次に述べる「口腔外科」です。

先天異常（口唇裂・口蓋裂、舌小帯異常・埋伏歯など）、炎症（虫歯や歯周病からの炎症、口内炎など）、外傷（歯の破折や脱臼、顎の骨折、舌や唇のけがなど）、嚢胞（口の中や顎の骨にできる袋状の病変）、顎変形症（受け口や出っ歯、上下の歯が咬み合わない、顔が曲がっており対称ではないものなど、歯並びを治す

「矯正歯科」だけで治らない骨の大きさや形に異常があるもの）、良・悪性腫瘍、顎関節症（顎が痛い・口を開けたり閉じたりするときに音がしたり、途中で引っかかってうまく開閉ができない）、口腔乾燥症、口腔心身症（味覚異常、舌痛症、口臭、癌恐怖症など）、唾液腺疾患（唾石・炎症・腫瘍など）、神経疾患（痛みやしびれ、麻痺など）など口の中だけでなく、顎や顔面までの様々な症状や疾患を取り扱っています。

手術で唇や舌、顎の骨を失った人に、義歯や義顎（なくなった顎も付けた義歯）を作製、又、義歯が入れやすいようにする手術や口腔インプラント（人工歯根埋入）手術も行っています。

何か、お困りのことがありましたら、遠慮なく、われわれに声をおかけください。

（歯科口腔外科 鈴木浩之）

## 日本泳法：水府流太田派

私の趣味は水泳ですが、先日世界を沸かせたオリンピック競技の外国泳法ではなく、**日本泳法**です。日本水泳連盟は日本泳法として12流派を公認しており、その中の水府流太田派を修めています。

**水府流太田派**とは水府流（茨城県水戸市）の名人太田捨蔵が、江戸時代末期幕府講武所で日本中の游泳術を研鑽し、明治時代になり東京日本橋浜町河岸に太田道場を開き、大日本游泳術を創始したことに始まる流派です。その後学校水泳（東京高等師範学校、開成学園など）として広まり、現在では日本泳法の中で最大の游泳人口を誇り、師範（太田派では家元・宗家を師範と呼称します）も現在第8代となっています。

私は小学生のときから水泳が得意で、中学入学後も水泳部に迷わず入部しましたが、この水泳部が水府流太田派を修練していたことで入門した次第です。**この水泳部は1898年の創部以来水府流太田派を修練しており、現存する水府流太田派の団体では最古参となっています。**

現在でも後輩たちの指導は勿論のこと、自分自身の鍛錬も続けています。

技のピークは30歳の時位だったと思いますが、遊ぎとしては年々進化しているつもりであり、年齢による遊ぎの変化を自分自身感じ取ることが日本泳法というスポーツの面白さと言えましょう。ですから日本泳法は競泳以上に年齢に関係なく楽しむことが出来、生涯スポーツとして最適です。

日本水泳連盟は競技会として、競技部門と資格審査部門からなる日本泳法大会を主催しており、今年第53回大会が水戸で開催され、小学生から70歳代後半までの幅広い年齢層の選手が参加していました。**来年8月22、23日に第54回大会がご当地浜松で開催されます。会場は来春完成予定の古橋広之進記念浜松市新水泳場トピオ（浜松市篠原）ですので、是非観戦にいらして下さい。**私も泳法競技審判主任として会場にいる予定です。

（腫瘍センター 田中達郎）

## ロマンティックな菜園ティスト！

《空豆》、鞘が空に向かっているので、この名が付いた。豆のまわりに蚕のような白い綿状の衣があるので**蚕豆**とも書く。独特な風味のため嫌う人もいるが、私の菜園に集う酒好きのおじさんたちにとっては、最高のビールのお友の一つである。5月から6月にかけての菜園の主演は、この空豆たちである。**栽培に秋から年を越して初夏までかかる上に、虫に弱く、当然高価である。**これを無農薬で作るのは至難の業に近く、一昨年は全滅した。マーケットに並ぶのは、相当量のchemicalを浴び、少々育ちすぎて収穫から時間が経ちすぎた、風貌は立派で虫のついていない高価な空豆たちである。野菜の類のほとんどは、若い頃の取れ立てがよろしい。女房には申し訳ないが、女性と同じである。**空豆こそ、成熟前の柔らかくてみずみずしい、少し頼りないくらいの現実の流通では不可能である2時間（通が言うには2時間が命）以内に食べるのが礼儀である。**取れ立てのうちに、誰にも邪魔されず食するためには、携帯電話の電源をしっかりとオフにして、休日の朝早く、畑、その場で食するのが最善である。雰囲気を察知したおじさんたちが、初々しい空豆を求めて、鍋、コンロ、もちろんビールを持参して集まり、一心不乱に収穫し、鞘ごと火を通す。内側の綿状の布団が豆を完璧な状態に蒸し焼きにする。火の通し加減は、鞘が調節してくれるので何も難しいことはない。塩さえも要らない。ビールとともにのどを通る、極楽。「こんなすてきな毎日が過ごせるのなら、医者をやめてファーマーになろう」といつも思うが、この日食した空豆（マーケットで買ったら3,000円分くらい）が高く売れても、飲み干したビール代には遠く及ばない。**飲みながら畑を耕し、また飲んで、耕し、酔ってしまうと、すでに種をまいた畝をまた耕してしまったりして、これもまた楽しい。**

（第一外科 鈴木一也）